

小学校1年 生活・学習経験を生かして学びを広げる「すたあと」の活用

川崎市立南菅小学校 北林 新菜

【実践報告の概要】

新1年生においては、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と関連した指導展開が求められている。スタートカリキュラムが意識された「すたあと」を活用することで、児童が活動内容を共有し、安心感や期待感をもって学習へ取り組みると考えた。これまでに培ってきた生活・学習経験を生かせるように、それらを基盤にした授業設計を行った。年間を通して番組活用することで、児童が自分なりに工夫をしたり創造力をもって活動に取り組んだりすることができた。学級として、主体的に学びを進めていく経験を積み重ねることができた。

【取組の具体】

○みんなとなかよしになろう (4月・スタカリ期・生活科)

<基盤となる経験>

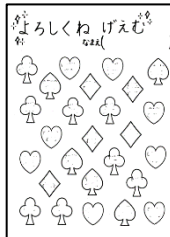
- ・朝の会の健康観察・図工「すきないろでぬろう。」
- ・児童の声「“ともだちびんご”をやりたいな。」

<活動の流れ>

1. 課題の確認。「なかよしになるげえむをしよう。」
2. 「じこしょうかいげえむ」の回を視聴。
  - ・楽しそう。・友達じゃない人とは出来ない。
  - ・名前が書けない人はどうするの。・早くやろう。
3. ゲームの方法を話し合う。
  - ・やろうと言うよ。やだは言わないよ。
  - ・平仮名が読めるから、教えてあげるね。
  - ・「よろしくね」でタッチしたら楽しくなりそう。

4. 話し合った方法でゲームを楽しむ。

※10分×3日間で実施する。



○ころろがぼかぼかになるおべんとうやさんをひらこう (10月・教科学習・図工)

<基盤となる経験>

- ・ごっこ遊び ・遠足の日のお弁当
- ・図工「ごちそうパーティーをひらこう (油粘土)」

<活動の流れ>

1. お弁当を食べた日のことを思い出す。
  - ・みんなで食べて楽しかったな。
  - ・おいしくなあれって作ってくれたのかな。
2. 「おりがみのおべんとうやさん」の回を視聴。
  - ・豪華なお弁当だな。・私はお寿司を作ろう。
  - ・折り紙をちぎったりを包んだりして作りたい。
3. 「ころろがぼかぼかになるおべんとう」を作る。
4. お弁当屋さんごっこをする。
  - ・いらっしやいませ。・おすすめは何ですか。
  - ・中にキムチが入っていて辛いですよ。
5. 活動を振り返る。
  - ・みんながにこにこで買ってくれて、嬉しかった。
  - ・次はアイス屋さんを作ってみんなに来てもらう。



【活用番組と実践者による番組分析】

活用番組「すたあと」

- 教科の学びに繋がるテーマも取り扱われているため、年間を通して活用することができる。
- 5分間の短い番組であるため、入学当初の児童でも、意欲や集中力を維持したまま活動に取り組める。
- 繰り返し楽しめる内容であり、児童が試行錯誤したり、次の活動を創造したりしやすい。

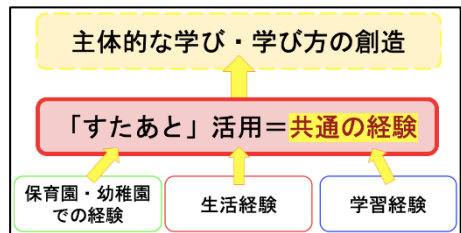
【本実践における工夫点】

年間を通した番組の活用

「スタカリ期」「教科のきっかけ」「各教科学習」の三つの段階に分けて実践を行った。年間を通して継続的に活用することで、就学前から経験のある「番組視聴」が、学習のきっかけにもなっていくようにした。

生活・学習経験を生かした授業設計

就学前の経験や、これまでに学級で重ねてきた生活・学習経験を生かして授業設計を行った。児童が主体的に学びを進めたり、学び方や活動の内容を創造したりすることができるようにした。



【本実践の成果○と課題●】

- これまでの経験を生かした授業設計をすることで、番組の活動をまねるだけではなく、児童が自分なりに工夫をしたり創造力をもって学習に取り組んだりすることができた。
- スタカリ期から学び方を創造する経験を積み重ねてきたことが、学級に主体的に学びを進めていく基盤をもたらした。
- 番組活用をスタートカリキュラムや年間指導計画の中にあらかじめ組み込んでいるとよい。
- 担任の日々の実践であるため、客観的な裏付けや分析があると、より成果を見取ることができる。